

ルテインと白内障の関連研究、多数報告 「日米白内障研究会議 2004」にて

去る2月14日から18日、米国ハワイ州コナ市で「日米白内障研究会議 2004」が開催され、基礎・臨床・疫学の各分野を代表する研究者約100名が集結、盛会となりました。学会では「ルテイン」と題したシンポジウムが17日に開催され、約40名の研究者が参加、機能的食品素材であるルテインについて様々な研究報告が発表されました。まず座長のネブラスカ大学ピーター・ケーダー教授は、「近年多くのサプリメントが普及している中で、ルテイン及びゼアキサンチンが白内障をはじめ多くの眼疾患に有効であるという事実が多数報告されている」と紹介しました。

次いで浜松医科大学の平光忠久名誉教授は「抗酸化物質と加齢性白内障」と題し、白内障発症要因の一つである光酸化反応の機序を解説、ルテインが光酸化反応を抑制する可能性を、自らの研究結果を示して解説しました。その中で、「ルテインの持つ抗酸化作用が、ビタミン E に比べて10倍ほど強いことを最新の機器を用い確認した」と報告。一方、韓国カトリック大学のチョン・キ・ジュウ教授らは、ルテイン供給会社のケミン・ジャパン株式会社(東京都港区)との共同研究、「ルテインのラット網膜神経細胞に対する効果」を報告しました。同研究では、ラットの眼に人為的に虚血状態を起こし、その際に起こる網膜神経細胞死が、ルテイン投与により有意に抑制されることを明らかにしています。これら2つの研究には同社の「FloraGLO®ルテイン」が用いられました。

さらに、米国タフツ大学のアレン・テラー教授らはルテインを含む栄養素と眼疾患リスクとの相関性を最新データとともに紹介し、白内障に対しては、ルテイン、ビタミン E、ビタミン C の摂取が有効である事を報告しました。本シンポジウムは、白内障に対するルテインの効果の可能性を、最新の研究結果を交え討議した最初の会合で、今後、白内障の予防あるいは治療におけるルテイン及びビタミンの重要性に注目が集まるであろうと予想されます。

日米白内障研究会議について

同会議は、「白内障が原因となる失明をなくす」ことを目的として、1980年の第一回以来、1983年から隔年ごとに開催、日本の白内障研究グループと米国国立健康研究所の研究グループが交互に主催するというユニークな形式を取っています。わが国の優れた研究を多数紹介し、若手研究者の育成、白内障への社会的関心の向上などを目的としており、今回が第13回目の会議となりました。

ルテインと「FloraGLO®(フローラグロー)ルテイン」について

「ルテイン」とは、脂溶性抗酸化物質であるカロテノイドの一種で、ホウレンソウやブロッコリーなど緑色葉菜に多く含まれる成分です。近年の研究により、人間の眼の黄斑部と水晶体に存在するカロテノイドはルテインとその関連物質であるゼアキサンチンだけであることがわかり、ルテインは眼の働きに重要な役割を果たす栄養素として大きな注目を集めています。

ケミンフーズ社では、独自の特許製法を用いてこのルテインをマリーゴールド (*tagetes erecta*) から抽出・精製することに成功、「FloraGLO®ルテイン」として製品化しています。自然界に存在する天然のルテインと同じ成分を製品化したことは米国の独立した第三者機関によって高く評価され、FloraGLO®ルテインは GRAS(一般に安全とみなされる)物質であると認められています。同社では、日本、米国、カナダ、EU など世界 13 カ国・地域で製法特許を取得しており、すでに 120 種類以上のビタミン剤やサプリメントといった栄養補助食品、食品、パーソナルケア商品などに FloraGLO®ルテインが利用されています。現在日本でも 30 社以上がこの FloraGLO®ルテインを製品に採用しています。

ルテインに関する詳細は「ルテイン情報局」ウェブサイト <http://www.luteininfo.jp> をご参照ください。

ケミンフーズ社(Kemin Foods, L.C.)について

米国アイオワ州デモインに本社を置くケミンフーズ社は、世界 60 カ国以上で事業を展開しているケミングループの一員として、食品や補助食品、パーソナルケア向け天然成分の製造販売を手がけるグローバル企業です。同社はアジア地域における拠点として 2000 年にケミン・ジャパン(株)を設立。国内における販売パートナーである(株)光洋商会とともに、FloraGLO®ルテインの普及活動に取り組んでいます。